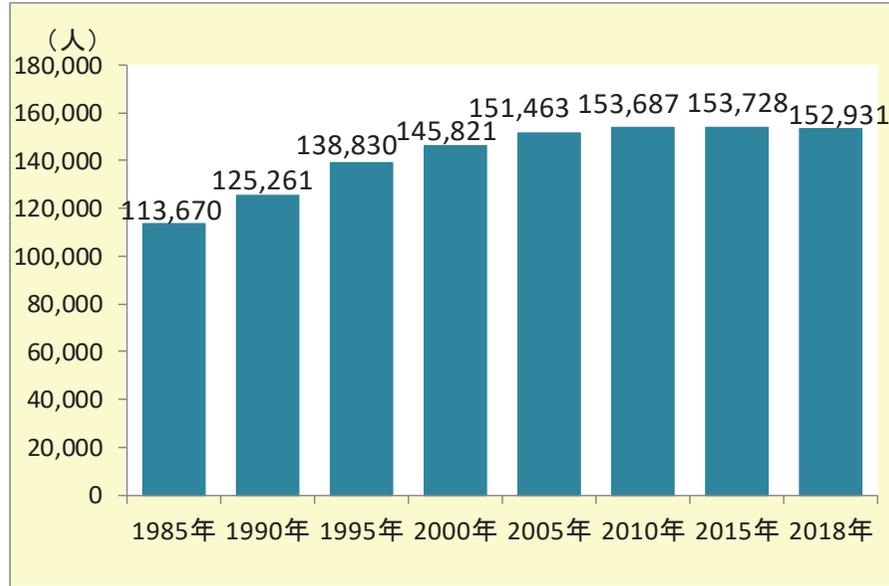


1. 総人口の推移

- 小牧市の人口は1985年以降増加し続け、1985年には113,670人であった総人口は、2015年には153,728人に達しています。しかし、2015年を境に人口減少が始まっています。

図 1. 小牧市の総人口推移

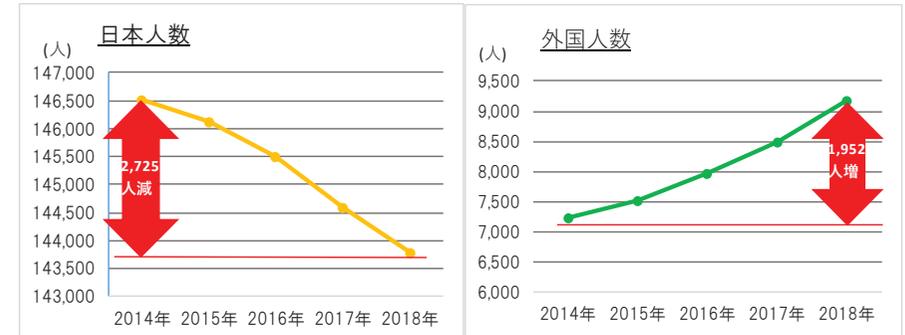


出典：住民基本台帳（各年 10 月 1 日現在）

2. 日本人・外国人別の推移

- 過去 5 年で比較すると、日本人人口が減少傾向にあるのに対し、外国人人口は増加傾向にあります。

図 2-1. 小牧市の日本人外国人別人口の推移



(単位：人)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
小牧市の人口	153,744	153,655	153,471	153,096	152,971
日本人人口	146,514	146,136	145,507	144,596	143,789
外国人人口	7,230	7,519	7,964	8,500	9,182

《参考》

図 2-2. 小牧市の外国人の国籍別順位

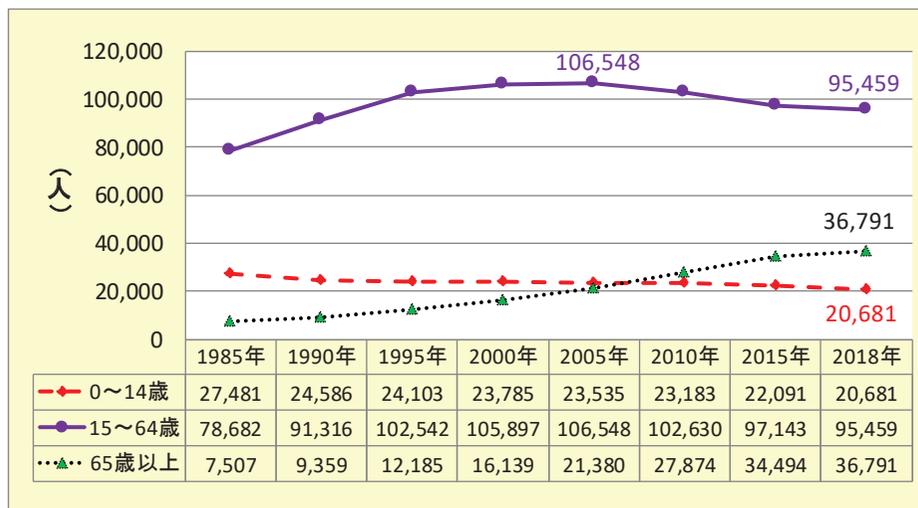
(単位：人)

2018年		2014年		増加数(2018年-2014年)	
1位	ブラジル 3,052	1位	ブラジル 2,715	1位	ベトナム 842
2位	フィリピン 1,379	2位	中国 1,025	2位	フィリピン 378
3位	ベトナム 1,198	3位	フィリピン 1,001	3位	ブラジル 337
4位	中国 1,020	4位	ペルー 741	4位	インドネシア 131
5位	ペルー 800	5位	韓国及び朝鮮 514	5位	ペルー 59

### 3. 年齢3区分別人口の推移

- 小牧市の人口を年齢3区分別にみると、老年人口(65歳以上)は増加し続けている一方、年少人口(0～14歳)は減少し続けております。生産年齢人口(15～64歳)は2005年前後をピークに緩やかに減少傾向となっています。

図3-1. 年齢3区分別人口の推移(人数)



出典：住民基本台帳（各年10月1日現在）

図3-2. 年齢3区分別人口の推移(構成比)

	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2018年
0～14歳	24.2%	19.6%	17.4%	16.3%	15.5%	15.1%	14.4%	13.5%
15～64歳	69.2%	72.9%	73.9%	72.6%	70.3%	66.8%	63.2%	62.4%
65歳以上	6.6%	7.5%	8.8%	11.1%	14.1%	18.1%	22.4%	24.1%

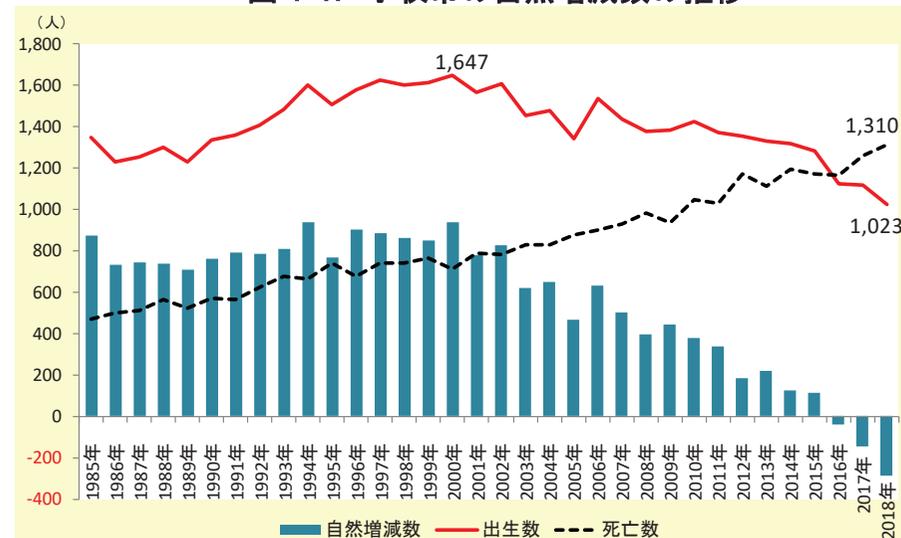
出典：住民基本台帳（各年10月1日現在）

### 4. 自然動態の推移

#### ＜自然増減数＞

- 小牧市の自然動態は、1985年以降一貫して自然増(出生数>死亡数)でしたが、2016年を境に自然減(出生数<死亡数)に転じています。要因として、出生数が2000年の1,647人をピークに減少傾向となっている一方、死亡数は増加傾向となっていることが挙げられます。

図4-1. 小牧市の自然増減数の推移



出典：住民基本台帳

## < 合計特殊出生率 >

- ・ 小牧市の合計特殊出生率(1.44)は全国(1.43)と比べて同水準となっているものの、愛知県(1.54)と比べると0.1ポイント低い状況です。
- ・ 経年でみても、近年は愛知県より低い水準で推移しています。

図 4-2. 全国・愛知県・小牧市の合計特殊出生率の推移

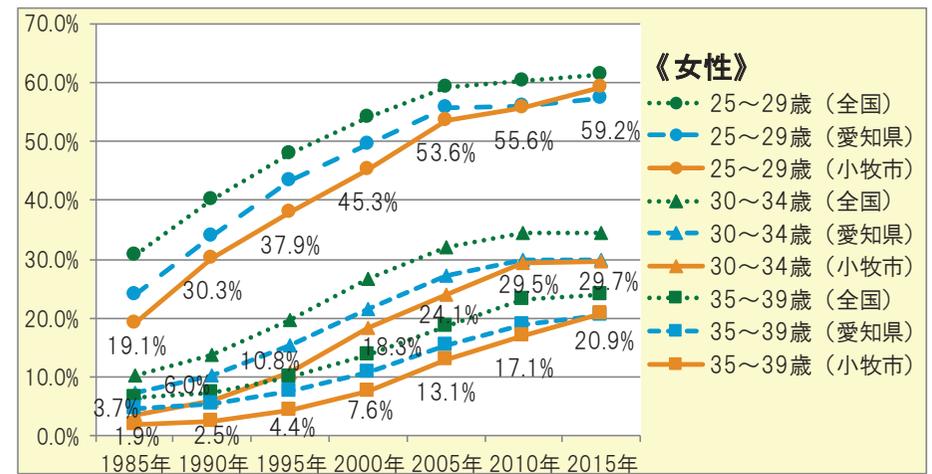
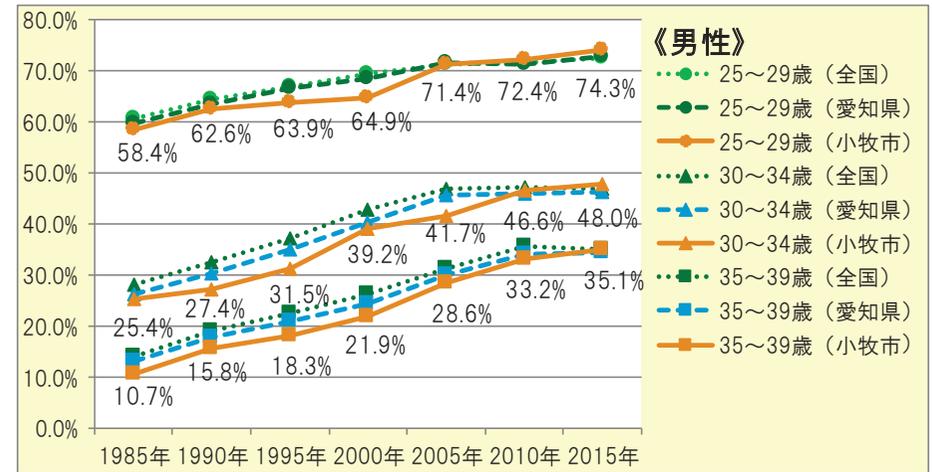


出典：愛知県「人口動態統計」2018, 小牧市資料

## < 未婚率 >

- ・ 小牧市の25～29歳、30～34歳、35～39歳の未婚率は、男女とも年々上昇しており、未婚・晩婚化が進行していることがうかがわれます。また全国・愛知県と比べてみると、男性は全国平均に近い水準で近年推移していますが、女性は全国平均を下回って推移しています。

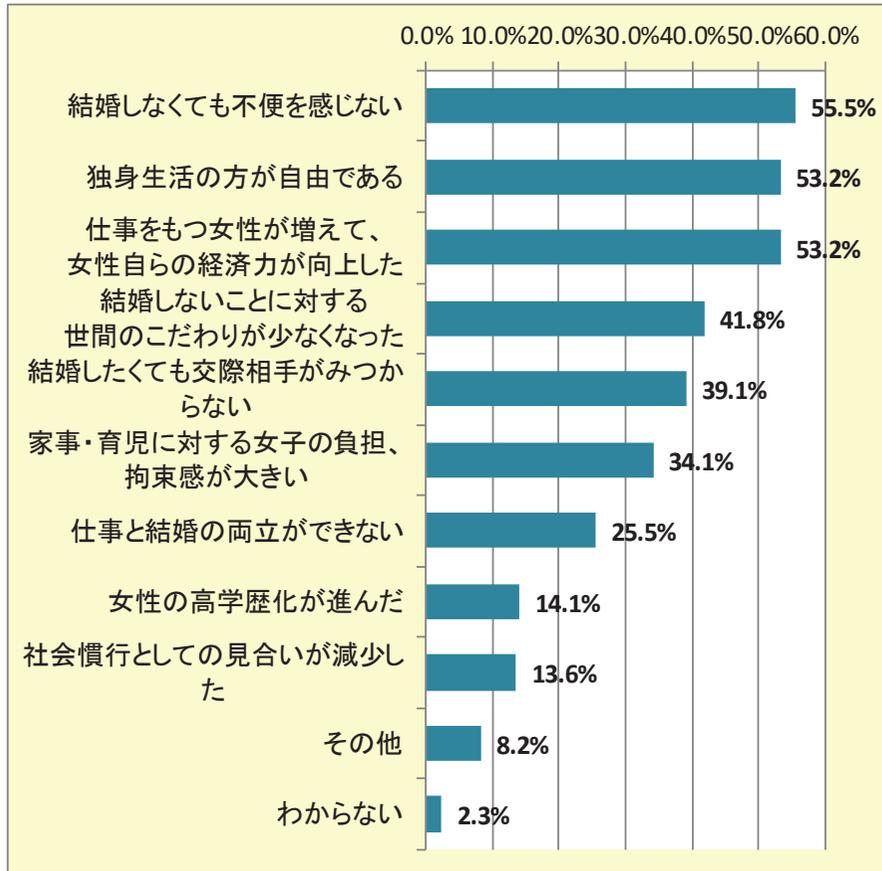
図 4-3. 全国・愛知県・小牧市の未婚率



出典：国勢調査

## 晩婚化・未婚化に関する意識調査

図 4-4. 晩婚化・未婚化の傾向の理由 (N=220) ※複数回答のうち主な回答



出典：小牧市 H30 「子ども・子育てに関するアンケート調査」

## 出産に関する意識調査

- また、理想の子どもの数を持たない理由について、各年代通じて「子育てにお金がかかりすぎる」が最も多くなっています。

図 4-5. 理想の子どもの数を持たない理由 (複数回答)

妻の年齢 (客体数)	理想の子どもの数を持たない理由											
	経済的理由			年齢・身体的理由			育児負担	夫に関する理由			その他	
	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	に自分の仕事(勤めや家業)を支えるから	家が狭いから	高齢で生むのはいやだから	欲しいけれどもできないか	健康上の理由から	これ以上の負担に耐えられない	得られた収入から育児への協力が	まだ成人してほしくないから	夫が望まないから	環境ではないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから
30歳未満 (51)	76.5%	17.6	17.6	5.9	5.9	5.9	15.7	11.8	2.0	7.8	3.9	9.8
30~34歳 (132)	81.1	24.2	18.2	18.2	10.6	15.2	22.7	12.1	7.6	9.1	9.1	12.1
35~39歳 (282)	64.9	20.2	15.2	35.5	19.1	16.0	24.5	8.5	6.0	9.9	7.4	8.9
40~49歳 (788)	47.7	11.8	8.2	47.2	28.4	17.5	14.3	10.0	8.0	7.4	5.1	3.6
総数 (1,253)	56.3	15.2	11.3	39.8	23.5	16.4	17.6	10.0	7.3	8.1	6.0	5.9
第14回(総数) (1,835)	60.4%	16.8	13.2	35.1	19.3	18.6	17.4	10.9	8.3	7.4	7.2	5.6
第13回(総数) (1,825)	65.9%	17.5	15.0	38.0	16.3	16.9	21.6	13.8	8.5	8.3	13.6	8.1

注：対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る初婚どうしの夫婦。理想・予定子ども数の差の理由不詳を含まない選択率。複数回答のため合計値は100%を超える。予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦の割合は、それらの不詳を除く30.3%である。

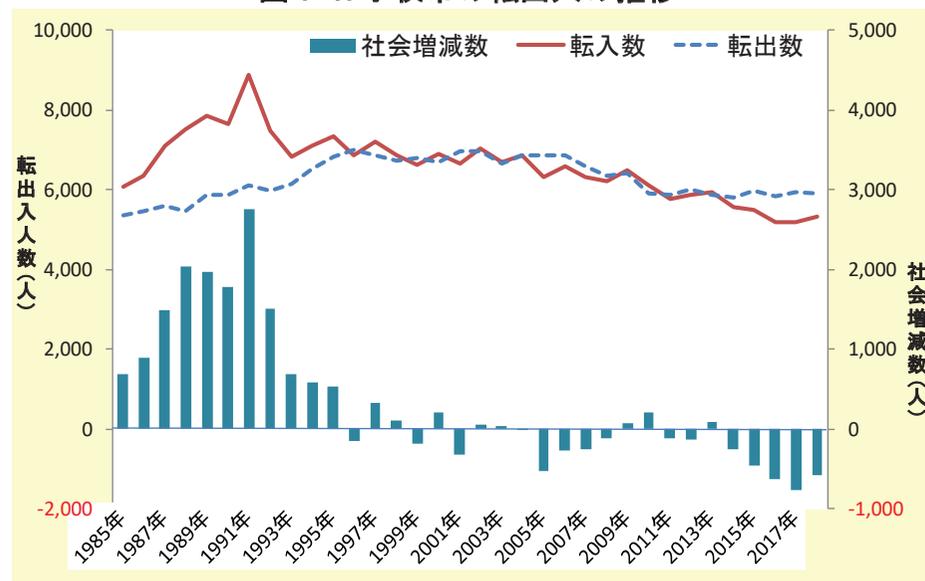
出典：国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」

## 5. 社会動態の推移

### < 転出入者数(日本人のみ) >

- 小牧市の社会動態は1995年まで転入超過を保ってきましたが、1996年以降、転入・転出がほぼ同数となり、転出超過と転入超過を繰り返し、近年は転出超過の傾向が見られます。

図 5-1. 小牧市の転出入の推移

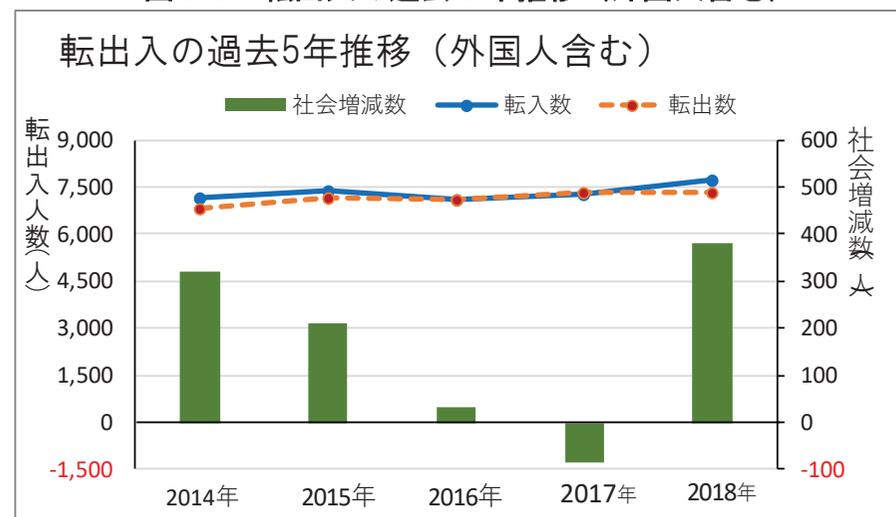


出典：住民基本台帳

### < 転出入者数(外国人含む) >

- 小牧市の外国人を含む過去5年の転出入の推移をみると、2017年を除き、社会増(転入数>転出数)となっています。このことから、近年日本人は転出超過にあるものの、それ以上に外国人が転入超過であることがうかがわれます。

図 5-2. 転出入の過去5年推移 (外国人含む)



出典：住民基本台帳

#### 社会動態(日本人のみ)

(単位:人)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
転入数	5,556	5,509	5,197	5,171	5,336
転出数	5,802	5,964	5,828	5,936	5,908
社会増減数	-246	-455	-631	-765	-572

#### 社会動態(外国人のみ)

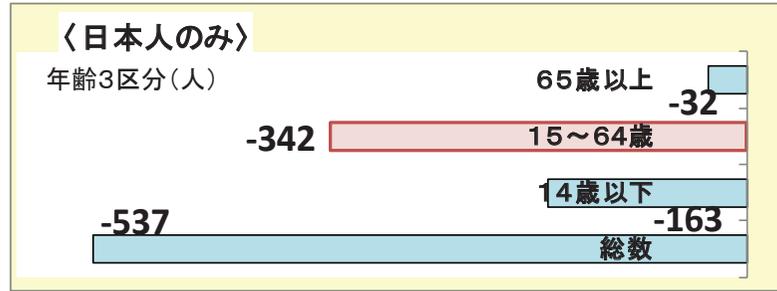
(単位:人)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
転入数	1,584	1,852	1,931	2,075	2,380
転出数	1,017	1,185	1,267	1,394	1,426
社会増減数	567	667	664	681	954

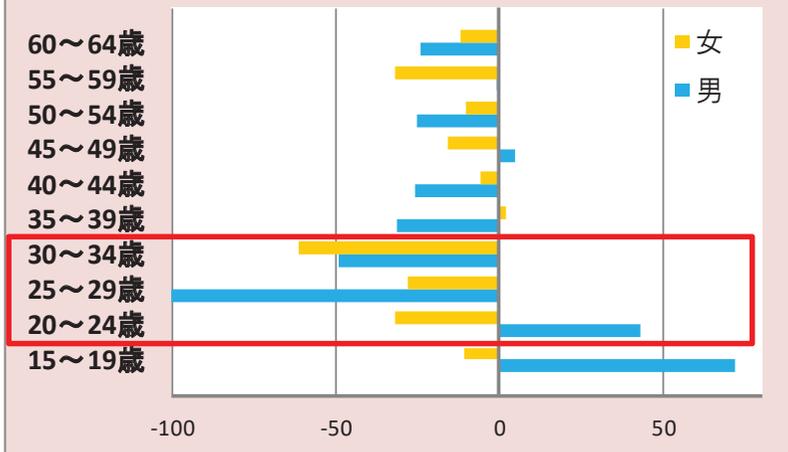
男女別・年齢階級別の人口移動状況

〈性・年齢階級別の転出超過数・転入超過数〈日本人のみ〉〉

[図 5-3]



年齢5歳階級 生産年齢のみ抜粋 〈日本人のみ〉

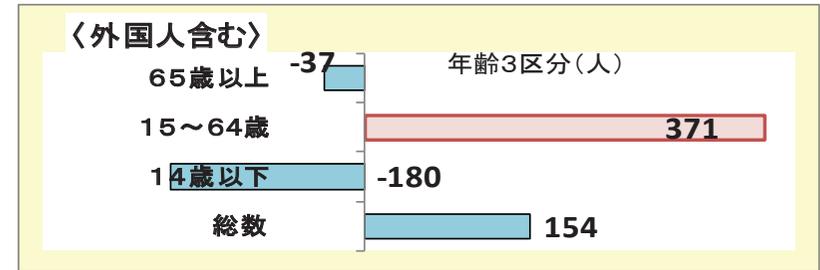


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」(2018年)

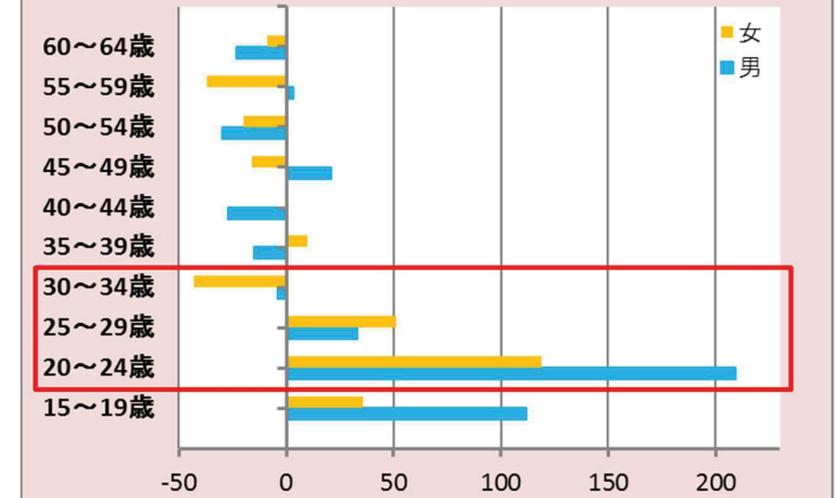
男女別・年齢階級別の人口移動状況

〈性・年齢階級別の転出超過数・転入超過数〈外国人含む〉〉

[図 5-4]



年齢5歳階級 生産年齢のみ抜粋 〈外国人含む〉 (人)



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」(2018年)

## ＜小牧市と他地域間の転出入＞

- ・ 転入元・転出先としては名古屋市と春日井市が圧倒的に多い状況です。そのほか、県内近隣市町間における転出入による人の行き来がみられます。また、東京圏との間における転出入も多い状況です。

図 5-5. 小牧市の転入元及び転出先（各上位 10 地域+東京圏）

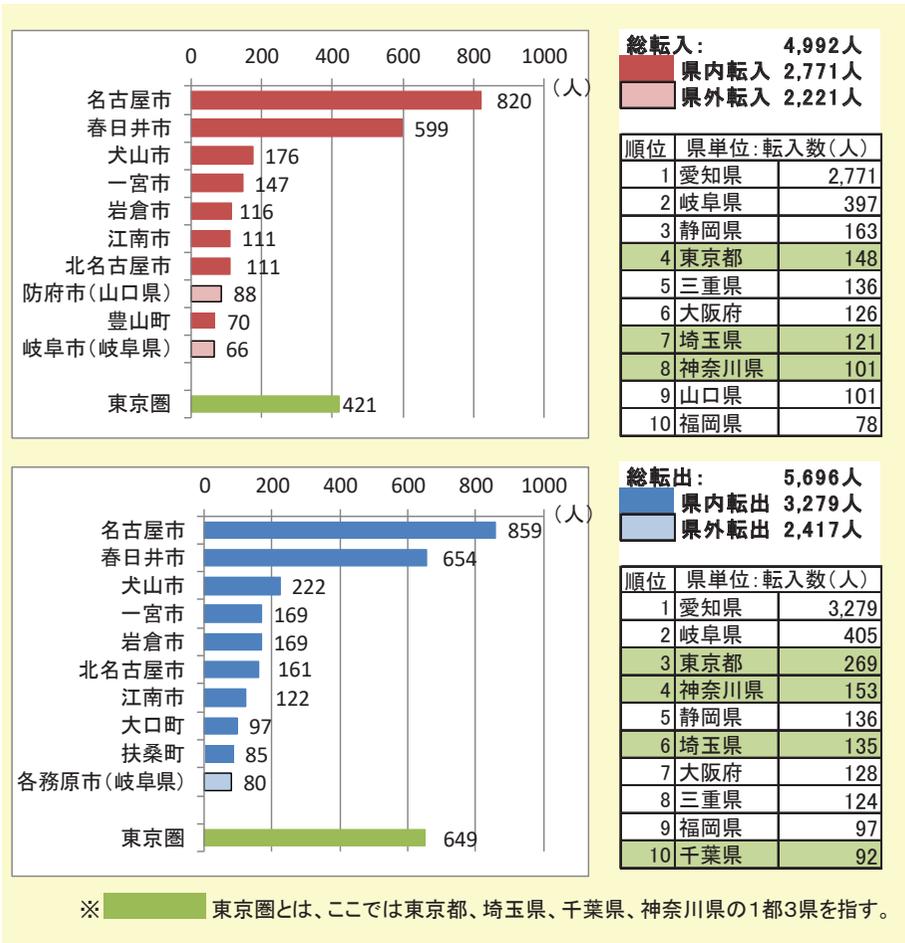
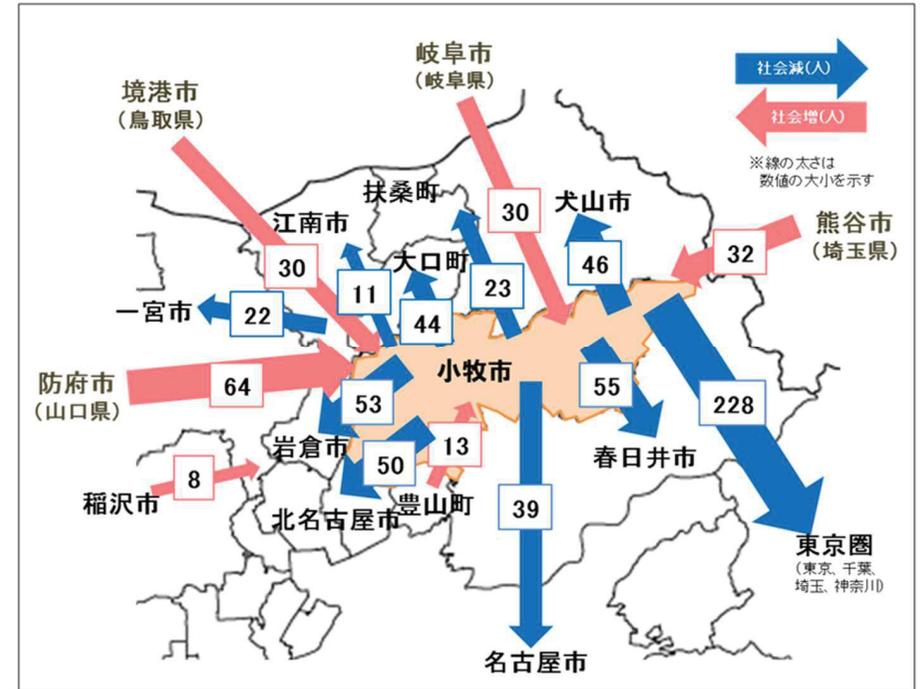


図 5-6. 小牧市における転入超過・転出超過の状況（主な地域）



2017年

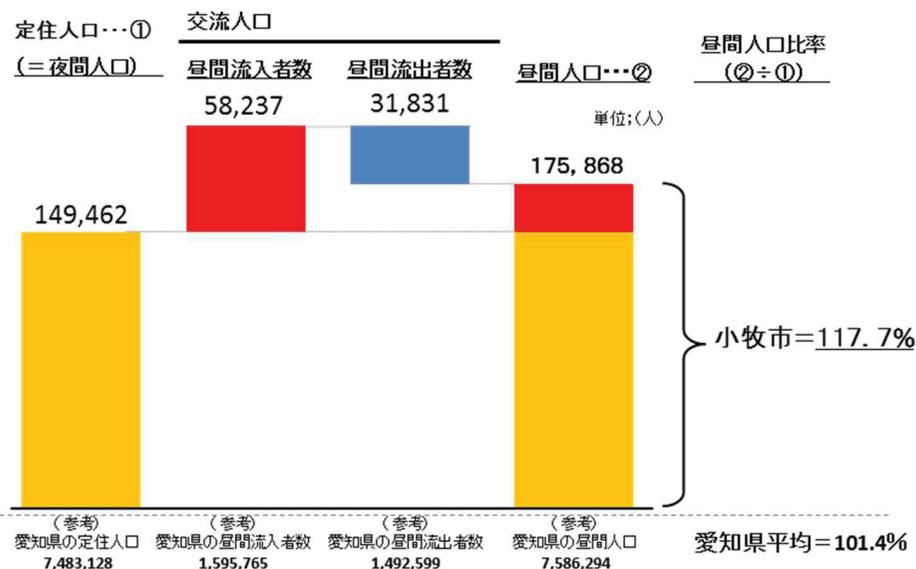
転入超過上位5自治体		転出超過上位5自治体	
1	防府市 64人	1	春日井市 55人
2	熊谷市 32人	2	岩倉市 53人
3	境港市 30人	3	北名古屋市 50人
4	岐阜市 30人	4	犬山市 46人
5	四日市市 23人	5	大口町 44人
			東京圏 228人

出典：国勢調査

## 6. 小牧市の昼間人口比率

- 昼間人口比率は、流入超過により約118%となっており、小牧市は愛知県平均(101%)よりも17ポイント高い状況です。

図6. 小牧市の昼間人口比率



小牧市への昼間流入元 (上位地域)(人)



小牧市からの昼間流出先 (上位地域)



出典：国勢調査

## 7. 小牧市の地区別推移

### <地区別人口>

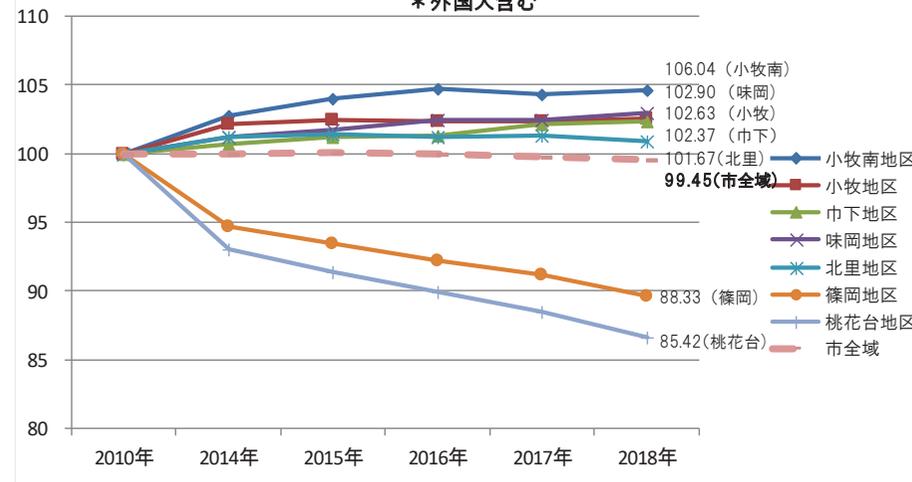
- 小牧市の人口推移を地区別でみると、小牧南地区・小牧地区・巾下地区・味岡地区・北里地区は2010年比100を超えているのに対し、篠岡地区(特に桃花台地区)が90を下回っており、市内のどの地区よりも人口減少が進んでいます(図30)。

図7-1. 地区別人口推移 (2010-2018)

《2010年=100とした場合の地区別人口推移 (外国人含む)》

	2010年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
市全域	100	99.95	100.03	99.95	99.74	99.51
小牧南地区	100	102.78	103.97	104.78	104.34	104.66
小牧地区	100	102.19	102.44	102.37	102.37	102.51
巾下地区	100	100.72	101.20	101.32	102.10	102.36
味岡地区	100	101.20	101.75	102.42	102.40	102.94
北里地区	100	101.25	101.37	101.22	101.27	100.86
篠岡地区	100	94.70	93.42	92.17	91.20	89.60
うち桃花台地区	100	93.00	91.41	89.91	88.53	86.65

2010年=100とした場合の地区別人口推移  
\*外国人含む



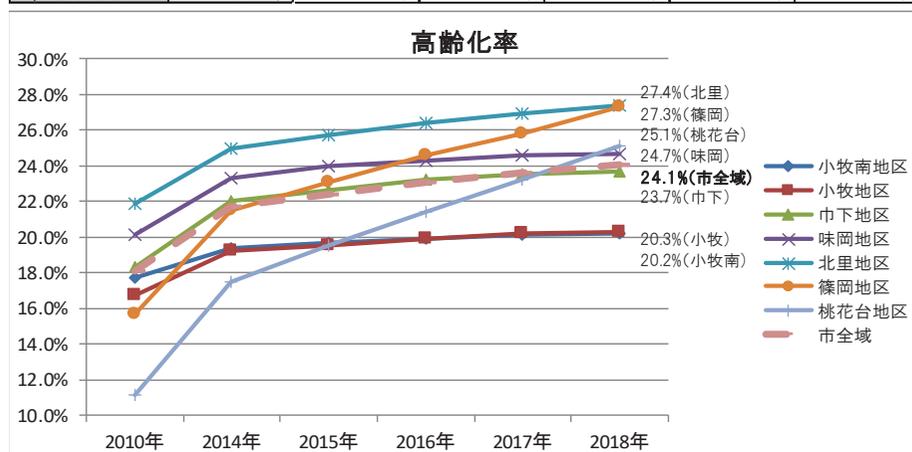
出典：住民基本台帳 (各年10月1日現在)

## ＜地区別高齢化率＞

- 小牧市の高齢化率を地区別で見ると、篠岡地区において2010年15.7%から2018年27.3%と大きく増えており、高齢化が急速に進んでいます(図31)。

図7-2. 地区別高齢化率 (2010-2018)

	2010年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
市全域	18.1%	21.7%	22.4%	23.1%	23.6%	24.1%
小牧南地区	17.7%	19.4%	19.7%	19.9%	20.1%	20.2%
小牧地区	16.7%	19.2%	19.5%	19.9%	20.2%	20.3%
巾下地区	18.3%	22.0%	22.6%	23.2%	23.5%	23.7%
味岡地区	20.1%	23.3%	24.0%	24.3%	24.6%	24.7%
北里地区	21.9%	25.0%	25.7%	26.4%	26.9%	27.4%
篠岡地区	15.7%	21.5%	23.1%	24.6%	25.8%	27.3%
うち桃花台地区	11.1%	17.5%	19.5%	21.4%	23.2%	25.1%



出典：住民基本台帳（各年10月1日現在）